

ドイツ経済思想史論集 II

小林 純 著

全2巻 四六判 上製 304ページ 定価：本体2,600円+税 ISBN978-4-902225-77-8 C3033

複雑な国境問題を抱えるドイツは、資源・食料確保、産業立地などに配慮しつつ「経済圏」を構想してきた。欧州という国際社会の中でアイデンティティを保ち、自己維持をはからなければならない。ドイツ経済思想の展開には、この事情が色濃く影を落としている。（「はじめに」より）

一九世紀中葉からヴァイマル期までの ドイツ語圏における経済思想史の展開を追う

【II巻目次】

- I クニース経済学における「アナロジー」と「ジッテ」の位置価
- II 二つの「工業労働者問題」項目
——シェーンベルク版ハンドブックをめぐる
- III ドイツ銀調査委員会とW・ロッツ
- IV ドイツの「中欧」構想——経済思想史の視点から
- V 自由を描く——ヴェーバーのプロジェクト
- VI ヴィーン住宅建設史のひとこま
- VII 書評

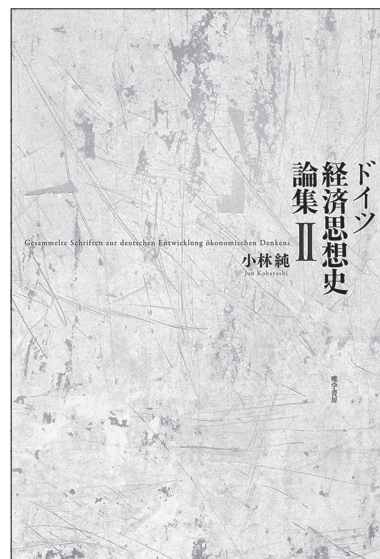
【I巻目次】（2012年5月31日既刊、四六判、上製、288ページ、定価：本体2,600円+税）

- I カール・G・A・クニース——ドイツ歴史学派の倫理的経済思想
- II 一九世紀ドイツの経済学観——シェーンベルク版ハンドブックをめぐる
- III ワルター・ロッツの経済政策観
- IV 経済統合の系譜——ナウマン「中欧」論によせて
- V エミール・レーデラーの位置をめぐる
- VI ヴィーンのオットー・ノイラート——一九二〇年代の実践活動
- VII 研究動向

【著者紹介】

小林 純（こばやし・じゅん）

1950年生まれ、立教大学経済学部教授。著書に、『マックス・ヴェーバーの政治と経済』（白桃書房、1990年）、『ヴェーバー経済社会学への接近』（日本経済評論社、2010年）。訳書に、ピーサム『マックス・ヴェーバーと近代政治理論』〔共訳〕（未来社、1988年）、テンブルック『マックス・ヴェーバーの業績』〔共訳〕（未来社、1997年）等多数。



◆ご注文書

FAX 03-5215-1953

電話 03-3237-7073

書店印	新刊委託	ドイツ経済思想史論集 II ISBN 978-4-902225-77-8 C3033 定価：2,600円+税 著者：小林 純 発行：唯学書房 発売：アジュール・プロダクション	冊数
	返品条件 付注文	ドイツ経済思想史論集 I (2012年5月31日既刊) ISBN 978-4-902225-73-0 C3033 定価：2,600円+税 著者：小林 純 発行：唯学書房 発売：アジュール・プロダクション	冊数

書店様へ 取次会社は、トーハン、日販、大阪屋、栗田、太洋社、明文図書、大学図書、JRC、新日本図書です。